

(鹿児島郡吉田町大原)

位置と環境

吉田町は鹿児島市の北東に隣接し、続いて、始良町・蒲生町・郡山町に囲まれた内陸部に位置している。北部と南東部は500m前後の山地に囲まれ、中央は標高200m程の平坦地となり、両山地の水は本名川・精木川となって、平坦地を南と北に流下して鹿児島湾に入っている。

遺跡地は吉田南中学校の校庭である。字図の「ぐんの木迫」に当たり、平坦地の南部に位置している。もともとは標高240m程の小丘陵を開いて校地としたものである。この丘陵が遺跡地であったが、削平されて失われ、工事未了の南端部に僅かに遺跡が残存していたものである。

調査の経緯

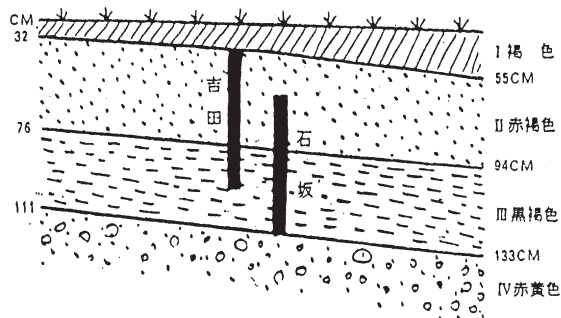
昭和27年に、校庭の南部に残存した丘陵の削平作業が行われ、作業にともなって土器が出土し、遺跡である事が判明した。

知らせを受けて、昭和27・28年（1952・53）に発掘調査を行った。遺跡地は校庭の南端で、東西51m、南北27m、最高地点3.4mの小丘陵である。調査の結果遺跡の末端部分であることが判明し、中心部は前に行われた削平工事によって失われていることが推定されたが、残存部分の埋存状況は後世の攪乱が無く、確実なものであった。

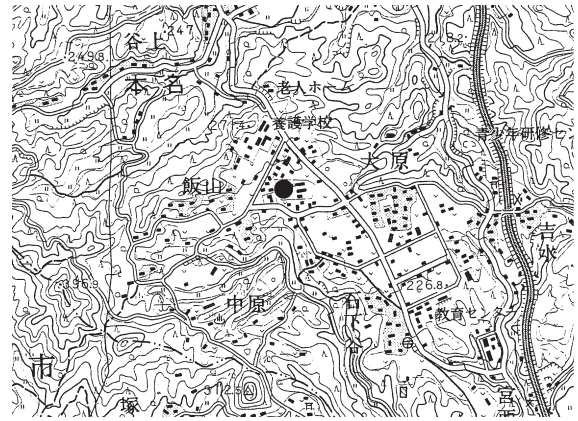
地層の堆積状況は、耕作によってアカホヤ層は失われており、次に示す堆積状況であった（第2図）。

第一層 表土（褐色土層）、無遺物層

第二層 赭褐色土層、遺物包含層



第2図 大原遺跡の地層と土器の出土状況



第1図 大原遺跡の位置

第三層 黒色粘質土層、遺物包含層

第四層 黄橙色軽石層（薩摩火山灰層）11,500年前

第五層 暗茶褐色粘質層、

第六層 明褐色風化火山灰層（ヌレシラス）

第2図に示すように、本遺跡で初めて発見された吉田式土器は第二層の初めから第三層の半ばまで出土し、今一つの出土土器である石坂式土器は、第二層の半ばにいたって初めて現れ、第三層の最低部に至るまで出土している。

以上の出土状況から、両型式は縄文土器の早期の古い時期に属し、共に二つの層に跨がって出土している状況から見て、地層の堆積期間が示す長期間行われた型式である事を示している。土器型式の行われた継続期間を示す堆積状況は、いずれの遺跡でも見られる現象で、本遺跡に限ったことではないが。多くの場合、この重要な現象が看過されていることは、残念で、研究の欠落というほかはない。

次に、両型式は相当の期間、重複していた事が示されている。つまり石坂式を作っていた人々と、吉田式を作っていた人々が同一集落の人々であったということである。

次に、石坂式を作ったのが早く、両型式が重複した時代を経て、石坂式が作られなくなった後まで吉田式はなお引き続いて製作された時代が続いた事を示している。

遺構と遺物

遺構は遺跡の中心部にはあったと思われるが、調査地域では発見されていない。本遺跡では、石坂式土器と、吉田式土器と若干の石器が出土している。

石坂式土器は昭和5年岩川町、八木塚の畑地で発見されたが、昭和28年知覧町石坂上遺跡の発掘で再発見され、遺跡名から「石坂式」と命名された。

器形は円筒形平底または、尖底の土器で、口縁部は外反し、口縁部の上面は平坦である。器壁は厚く、色調は紅褐色のことが多い。大きさは大小様々である。文様は口唇部に浅い篋刻みを施し、口縁部には、ハイガイの貝殻腹縁を施文具として、羽状の連点文を刻み、胴部には、同じ貝殻の施文具で、綾杉状の条痕文を全面に施し、底部付近では横位の条痕文に変わる。底部下端には篋刻みを施す。土器内面はなで仕上げを施す。

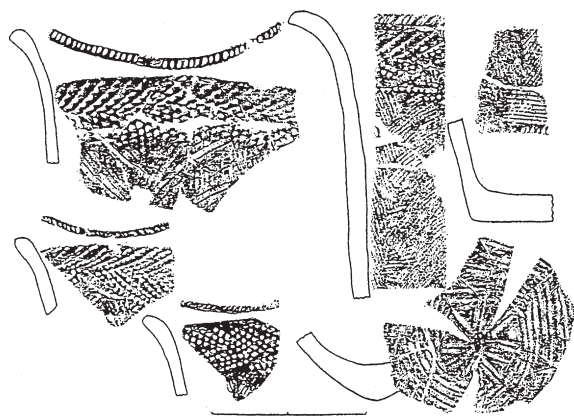
器形では、口縁部に山形隆起二か所あるもの、外へ三角の張り出しが二か所あるものが見られる。

吉田式土器は、本遺跡で初めて発見されたので町名をとって型式名としたものである。

器形は円筒形平底で、口縁部はやや外反し、口唇部は平坦で、外へ傾斜する。器壁は薄く、内面は良く研磨され、出来上がりの精巧なものが多い。胎土に雲母を含むものがある。大きさは大小各種ある。

文様は、華麗さを特徴とする。口唇部は浅く鋭い篋刻みを施し、口縁部には貝殻腹縁を施文具として一、横位に押圧して連点状の沈線を3条巡らすもの、二、貝殻を縦に保持し、右回りに連続押圧して楔形凸帯を带状に並列させ、二段または三段に巡らすもの、三、粘土紐を貼付して、上の楔形凸帯と同様の効果を現すものの三種類がある。

胴部には、全面に貝殻腹縁を用いて横位の押引文



第3図 大原遺跡出土の石坂式土器

と条痕文を交互に巡らすのが吉田式の特徴である。

胴部の下端には篋描きの縦位沈刻線を一周施文している。吉田式は口縁部の文様によって、さらに三種類に分れる。

石器

石器は、縦8cm。横5cm・厚さ3cmの火成岩の三角柱状の丹塗した石器と、黒曜石製のスクレイパー1個が出土した。

資料の所在

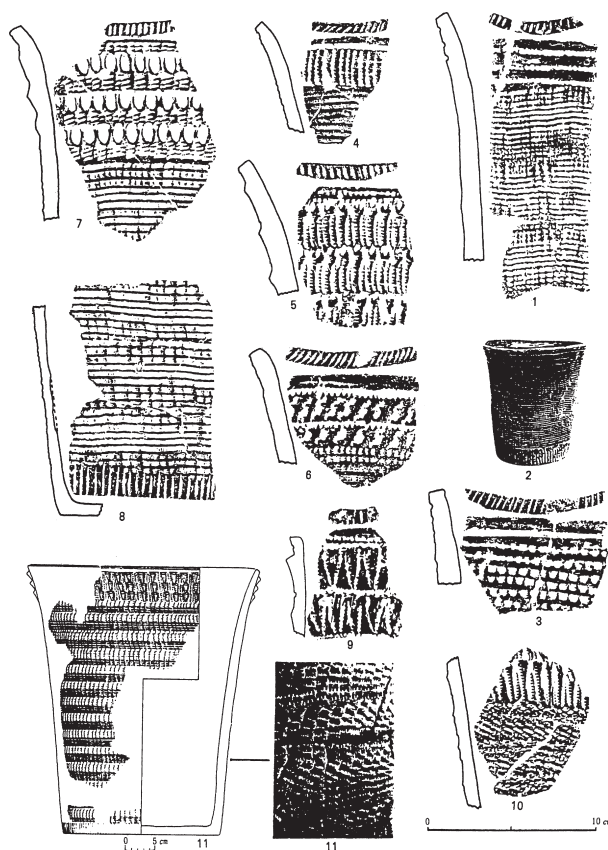
出土遺物は、河口貞徳宅に保管されている。

参考文献

吉田町1991『吉田町郷土誌』

河口貞徳 1995『石器時代』1 石器時代文化研究会 註 第4図11は加栗山遺跡出土

(河口貞徳)



1～3：吉田Ⅰ式、4～8：吉田Ⅱ式、9～11：吉田Ⅲ式
(1～10：大原、11：加栗山)

第4図 大原遺跡出土の吉田式土器